

# 「木と人とのつながり」をテーマに、 第13回「木と合板」写真コンテストを開催します！

木材・合板博物館では、第13回「木と合板写真コンテスト」を開催いたします。募集期間は2021年7月1日(木)～8月31日(火)、募集テーマは「木と人とのつながり」です。特別審査員にプロ巨樹カメラマン吉田繁氏を迎え、林野庁長官賞(大賞)には5万円の商品券が贈られます。日本国内在住者なら誰でも応募可能です(ただしプロは不可)。

木は製材や合板など様々な製品となって、私たちの生活を支える住宅や家具・おもちゃなどに使われています。木材利用を推進することは、日本の林業活性化にもつながり、地球温暖化に歯止めをかけることにもつながります。昨年は新型コロナウイルスのパンデミックが起これ、今年は東日本大震災からちょうど10年の節目の年です。歴史的にも住宅や地域の復興・再生には欠かせない木材。そして、木の温もりは五感を使って感じることで私たちの心を癒してくれます。これまで以上に身近にある「木」や「合板」などと人との関わりに目を向けていただければと思います。応募方法はEメール(photocon@woodmuseum.jp)にて、お一人様2点まで応募可能です。

詳しくは、HP(<https://www.woodmuseum.jp/photo-con/>)をご覧ください。皆様のご応募お待ちしております。



## 第12回 受賞作品

### 林野庁長官賞(大賞)



「青紅葉に染まる」村上正幸 撮影場所:兵庫県神崎郡福崎町

お寺の庭、そして室内の柱や天井が鏡面の座卓に映り込んで、親子が青紅葉あおもみじに染まっています。

#### (審査員講評)

審査の会場で、「ボン」と目に飛び込んできた写真がこの作品。それほど、存在感がある。窓の外の庭のことを考えると、欧米の、仮にだがフランス式の庭園は左右対称のシンメトリーで幾何学的な構成で作られている。

一方、日本の庭園は、そのような論理的に作られたものとは少し違い、歩くうちに景色が変わるだけでなく、季節の移り変わりに合わせて変化する彩を楽しむ。この写真は、緑の色でほとんどが占められるが、いつかはこの緑も別の色に変わることが容易に想像できる。そして、この家族も、そして、木質の室内も年月を経ると変わっていくだろう。そうした、一枚の写真に、時に移り変わりも込められている、日本的な美学が込められている傑作だとおもう。

#### (受賞者コメント)

人はみな、木と緑にいつも優しく見守られて生きていることをリフレクション(反射・鏡)で表現してみました。赤ちゃんが木々と同様に、すくすくと元気よく育ってくれることを願います。

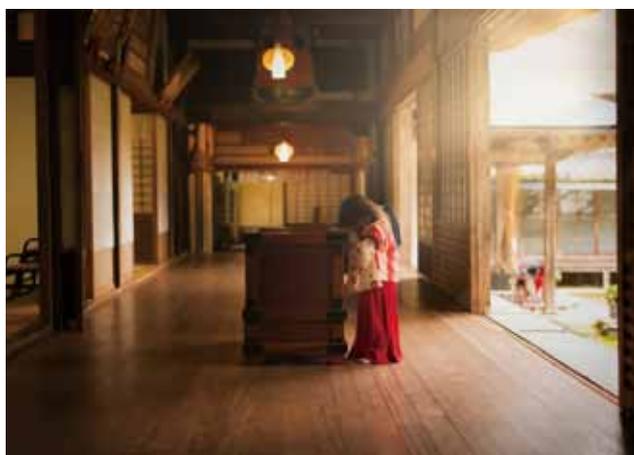
## 受賞作品（抜粋）



優秀賞「芸術の図書館」増井典子



建材賞「CLT PARK HARUMI」下鳥亨



特別審査員賞「little prayer」高橋秀治



木質素材賞「想い出」門林泰志郎



ネイチャー賞「長床と大銀杏」大島市郎



ライフ賞「めくもりの場所」山内佳子

### <お問い合わせ>

公益財団法人PHOENIX 木材・合板博物館 事務局

〒136-8405 東京都江東区新木場1-7-22 新木場タワー 4階

TEL : 03-3521-6600 E-mail : photocon@woodmuseum.jp HP : <https://www.woodmuseum.jp>

※当館はただ今当面の間、休館をしております。オンライン館内見学をお試しください。

